巻頭言

マティスあるいは瀬戸内寂聴

玉川大学 脳科学研究所長
坂上　雅道

私の机の上に、マティスの Pasiphae（パーシファエ）の絵葉書があります。どこかの美術館で見かけて、思わず買ってしまいました。黒字に、3 本の波（？）と横たわる裸の女性をこれ以上ないほどのシンプルな白い線で描いたものです。女性の肉体の躍動する生命感、柔らかなエロティズムを最低限の線で見事に表現しています。見た瞬間、本質を貫くその表現にくぎ付けになりました。

本質とは何でしょうか？　マティスの版画の場合、余分なものをすべて排した 9 本のラインで、私の心の奥底に潜む感性を引き出していることでしょうか？　最近、私は 40 年間の研究で何を成し遂げたのだろうか、と考えることが多くなってきました。別に私がやらなくても誰かがやるようなことしかやってないのではないだろうか？　とか。

大学時代、将来どのような研究をやるべきか、悩みました。言葉で、精緻に、論理的に人間を描写するような仕事をすべきか、歴史の中に埋もれている人間の本質を事実に基づきあぶりだすような研究をすべきか？　そんな時、心を実験的に調べる研究があることを知り、飛びつきました。決め手になったのは、そんなかっこいい理由ではありません。膨大な文献を読まなくてもいいし、巧みな言葉を使って聴衆を説き伏せていく必要もありません（少なくともそのころはそう思いました）。ただ、人間の本質をあぶりだすような実験をすればいいのです。本を読めば眠くなるし、文章を書くのが大嫌いな私にとって、これからの人生を明るくする絶好の方法だと思われました。

確かに楽ができたような気がします。何百ページの文章を書かなくても、研究費には事欠きませんでしたし、ちょっとピントがずれていても、実験は実験ですから、事実として皆さん議論してくれます。

先日、瀬戸内寂聴さんが亡くなりました。彼女の座右の銘は「生きることは愛すること」だそうです。彼女自身が言ったことか、他の人が言ったことを座右の銘にしているのかわかりませんが、自分が生きてきた人生を一言で総括しているし、人間の本質をついている。私は 40 年の仕事の中で何か人間の本質をあぶりだすようなことはできただろうか？　もし、今から私の実験を言葉で説明すれば、もうちょっとわかってもらえるだろうか？　最近、あらためて本質について考えるようになりました。